

## 木曾駒ヶ岳隊記録

1. メンバ: L:瀬上(28E)、宍戸(20M)。日比谷(27C)、小林(29I)

### 2. 山行記録:

2017年7月29日(金) 曇り時々晴れ

高円寺駅 6:15 全員集合。

宍戸車にて中央高速で駒ヶ根 I C 経由で菅の台バス停 9:40 着。

菅の台よりバスにて、しらび平ロープウェイ乗口へ 10:30 着

ロープウェイにて千畳敷着 11:00 着

千畳敷 11:23 発ー浄土乗越 12:08/12:30ー宝剣山荘 12:33/12:40

ー宝剣岳 13:00/13:20ー宝剣山荘 13:40 着

(宝剣岳へは不要荷物を宝剣山荘に置いて往復)

16:00 雨が上がり日が出てきたので夕食(17:00)まで伊那前岳方面へ散策に出る。

2017年7月29日(土) 曇り時々晴れ

宝剣山荘発 5:45ー木曾駒ヶ岳 6:30/7:00ー中岳 7:30/7:35

ー宝剣山荘 7:50/8:10ー浄土乗越経由でー遊歩道剣ヶ池 9:00/9:10

ー千畳敷ロープウェイ乗口 9:20ーロープウェイ発 9:30

しらび平 9:37/9:45ー菅の台駐車場 10:15 着

10:35 宍戸車にて上高地へ。沢渡駐車場 13:15 着/13:30 発

ータクシーにて上高地 13:50ー小梨平 14:10

### 3. 感想

20期 宍戸

日頃、山の選択をすると、どうしても北か南アルプスに偏り、なかなか中央アルプスに行く機会が無かったのですが、約50年ぶりに登りました。

宝剣岳や木曾駒のピークから眺める景色は北や南と一味違った趣で、大いに楽しんできました。何よりも50年以上付き合ってきた山の仲間と一緒に登る楽しさは格別です。

日本にはケーブルを使って簡単に3000m級の山を楽しめる場所は少ないので、高齢者にとっては手ごろな山だと思いました。

27期 日比谷

瀬上さん(28E)をリーダーに、宍戸さん(20E)ならびに小林さん(29I)と小生との4名で、宝剣から木曾駒へ。ハイキング的な山行であった。

木曾駒の頂上からは立派な山容の南駒ヶ岳と空木岳が見えている。

北の方には、御岳と乗鞍が見えている。御岳の頂上近くは3年前の噴火のせいであろうか、灰色になっている。

小茂鳥先生が亡くなられた1981年の夏に、荒さん(34C)とテントを使って越百から木曾駒までの縦走を試みて以来、36年ぶりの中央アルプスだった。

その時は、「ケーブルを使うのはよそう」と、大正時代に学童登山で遭難者を出した将棋頭山経由のルートで下山した。

伊那谷を覆う雲海の上に延々と連なる続く南アルプスの雄姿に励まされて歩いたことを思い出すも、今回は厚い雲に遮られて何も見えない。が、気心が知れた旧き友との山行は充実している。景色以上の価値がある。

## 29期小林

一緒に行っていたいただいた瀬上リーダ、宍戸様、日比谷様には大変お世話になり、ありがとうございました。

天気は期待してなかったのですが、晴れ間も多く千畳敷からの宝剣岳

翌日の木曾駒ヶ岳からの眺望もよく、恵まれた登山が出来ました。夕食前に伊那前岳方面への散策で、将棋頭山の尾根の景観が良かったし

花ではヒメウスユキソウ、鳥ではイワヒバリに会えたのも良かったです。

また、宍戸車での自動運転機能を経験させていただき、ありがとうございました。

技術はここまで来てるのかと驚きの気持ちでした。

## 28期瀬上

日程3日、3000mクラスのピークを踏みたい、違った山域を訪ねたい。そう考えて今年の夏山は考えていました。総会も終わったころ、小林さんと今年の夏山の相談をしました。

木曾駒ヶ岳はどうだろうと提案したら、少しおいて賛成の声を得ることが出来ました。

どうしたら29日に小梨平へ入れるか、ロープウェイ、バス、など交通機関を調べました。

結果、もっと機動力が必要との小林さんの提案から移動に自家用車を使うことになりました。その後、20期宍戸さん、27期日比谷さんの参加を得て総勢4名の隊となりました。

早速宝剣山荘へ宿泊の予約をし、宿を確保しました。過去訪れた岩永さんからロープウェイの待ち時間を考慮したほうがよい等アドバイスをいただきました。それも有り、出発時間も早めることにしました。

結果は金曜の平日であったためか、交通機関の接続はスムーズでした。予報での天気は良くなかったが、宝剣登頂までは時々晴れ間も見えた。登頂後山荘へ入って雑談をしていたら、雨に濡れた人たちがどんどん入ってきた。幸運を感謝した。

今回山での行程は短かったが強力なメンバーのおかげで目的達成でき幸せでした。



2017.7.28 宝剣岳頂上



2017.7.29 木曾駒ヶ岳頂上